

2019年3月期第2四半期 決算説明資料



2018年11月9日

株式会社NEW ART HOLDINGS



証券コード:7638

1. 第2四半期 決算概要
2. 連結業績予想及びその進捗
3. 第2四半期 トピックス及び第3四半期以降の取り組み

1. 第2四半期 決算概要

2. 連結業績予想及びその進捗

3. 第2四半期 トピックス及び第3四半期以降 の取り組み

1

2019年3月期 第2四半期 連結業績

売上高 8,014百万円
営業利益 699百万円

2

ジュエリー事業が引き続き好調に推移

3

上期連結業績予想に対し、売上及び利益ともに上振れ

売上高 8,014百万円 (前年同期比 +13.4%)

営業利益 699百万円 (前年同期比 +30.5%)

売上高・営業利益

売上高及び営業利益ともに、主力のジュエリー事業が引き続き好調に推移したことにより、前年同期と比べ大幅に増加

〔売上高〕 前年同期比946百万円増、13.4%増

〔営業利益〕 前年同期比163百万円増、30.5%増

(3)2019年3月期 第2四半期 業績(連結)

〔単位:百万円〕

	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	増減	増減率
売上高	7,067	8,014	+946	13.4%
売上原価	2,804	3,285	+480	17.1%
売上総利益	4,262	4,729	+466	10.9%
販売管理費	3,726	4,029	+302	8.1%
広告宣伝費	958	1,142	+184	19.2%
給与手当	847	866	+19	2.3%
営業利益	535	699	+163	30.5%
経常利益	511	706	+195	38.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	242	375	+132	54.6%
営業利益率	7.6%	8.7%	+1.1pt	—

ジュエリー事業 増収増益

- 国内は引き続き好調
 - ・テレビCMやWEB広告等の集客強化により来店客数が増加
- 海外は前期にオープンした台湾の売上がフル寄与

エステ事業 減収減益

- 売上拡大、利益率の改善を図るため、顧客層の見直し、商品構成変更、化粧品事業への取り組みをより推進することで、引き続き業績の回復を目指す
- 2Q(7月～8月)については前年同期と比べ増収増益に

アート事業 増収減益

- 美術品の販売に加えて、新規事業としてのアートファンドの立ち上げ準備中

その他事業 増収増益

- スポーツ関連事業:ゴルフシャフトブランド「CRAZY」の認知拡大を目指すと同時に、新製品開発を強化

(5)セグメント別業績②

[単位:百万円]

		2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	増減	増減率
ジュエリー 事業	売上高 ^{※3}	4,663	5,469	+806	17.3%
	セグメント利益 ^{※1}	565	1,015	+449	79.4%
エステ 事業	売上高 ^{※3}	1,562	1,384	△177	△11.4%
	セグメント利益 ^{※2}	23	△31	△54	△235.6%
アート 事業	売上高 ^{※3}	619	858	+238	38.5%
	セグメント利益 ^{※2}	18	△57	△76	△406.9%
その他 事業	売上高 ^{※3}	221	300	+79	36.0%
	セグメント利益 ^{※2}	△32	62	+94	290.5%
調整額	売上高	—	—	—	—
	セグメント利益 ^{※1※2}	△38	△289	△250	△641.8%

※1 ジュエリー事業の2019年3月期第2四半期のセグメント利益は、2018年3月期第2四半期に含んでいた本社管理費用が2017年9月の持株会社化に伴い含まれておりません。同費用は調整額に計上。

※2 セグメント損失は△で記載しています。 ※3 セグメント間の内部売上高及び振替高は含まず。

(6)貸借対照表(連結)の概要

[単位:百万円]

	2018年3月期	2019年3月期 第2四半期	増減
流動資産	9,735	10,137	+401
固定資産	4,116	4,145	+28
資産合計	13,852	14,282	+430
流動負債	5,962	6,395	+433
固定負債	1,234	977	△257
負債合計	7,197	7,373	+176
純資産	6,654	6,908	+254
負債及び純資産 合計	13,852	14,282	+430

変動要因

- ◆流動資産
 - ・受取手形及び売掛金+414
 - ・現預金+81
 - ・商品及び製品△160
- ◆固定資産
 - ・建物及び構築物+152
 - ・建設仮勘定△111
- ◆流動負債
 - ・前受金+432
 - ・1年内返済予定長期借入金+93
 - ・支払手形及び買掛金+57
- ◆固定負債
 - ・長期借入金+303
- ◆純資産
 - ・四半期純利益による
利益剰余金+375
 - ・配当金支払による
利益剰余金△97

自己資本比率 48.4%

1. 第2四半期 決算概要

2. 連結業績予想及びその進捗

3. 第2四半期 トピックス及び第3四半期以降 の取り組み

(1)第2四半期連結業績予想と実績との差異

第2四半期連結業績予想に対し
売上高は11.3%、営業利益66.5%の上振れ

[単位:百万円]

	2019年3月期 第2四半期累計(連結)		
	直近 業績予想	実績	差異
売上高	7,200	8,014	+814
営業利益	420	699	+279
経常利益	400	706	+306
親会社株主に帰属する 四半期純利益	190	375	+185

(2) 通期連結業績予想及びその進捗

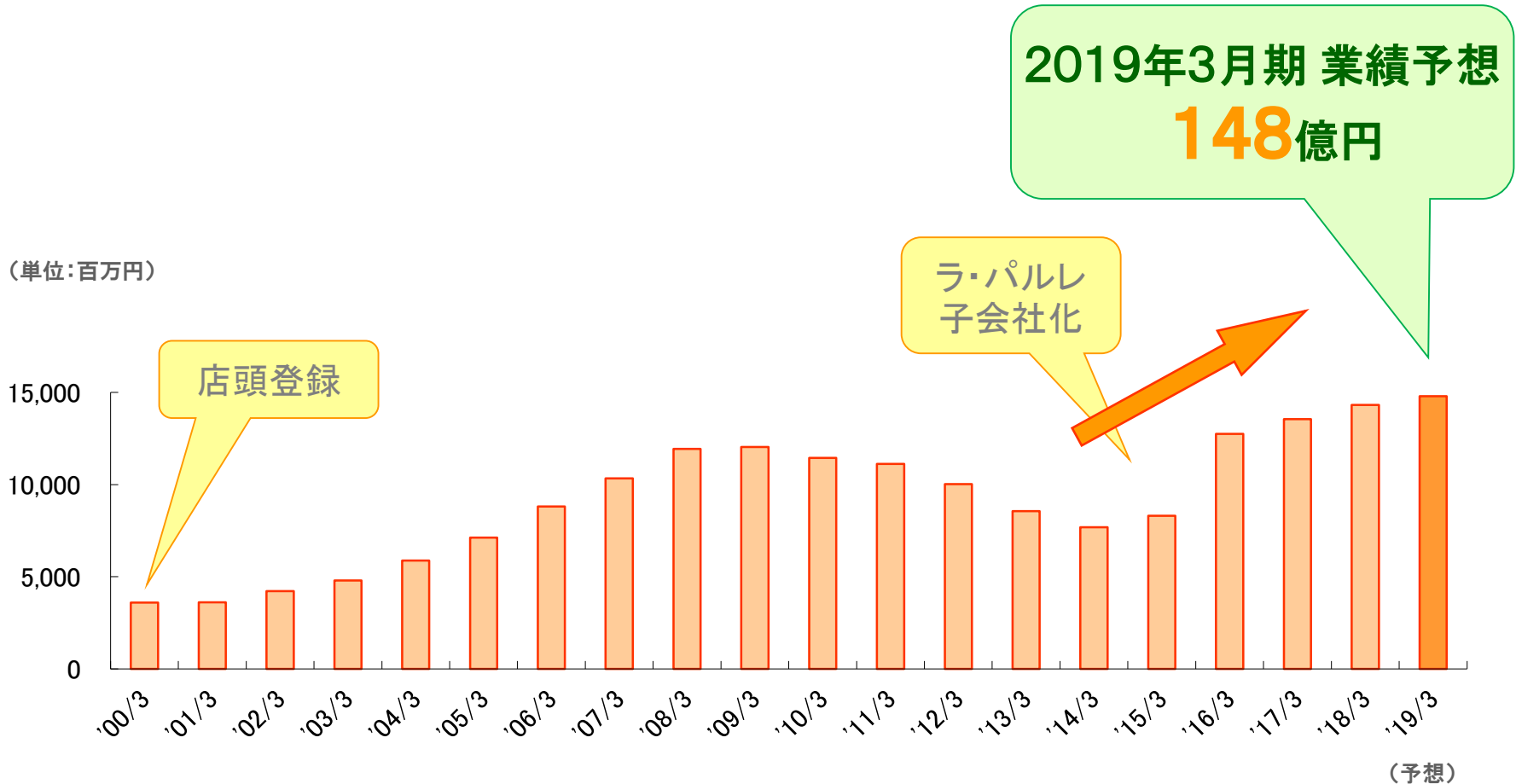
連結業績予想に対し順調に推移
売上高は54.1%、営業利益55.9%の進捗

[単位:百万円]

	2019年3月期(連結)		
	第2四半期累計 実績	通期 業績予想	進捗率
売上高	8,014	14,800	54.1%
営業利益	699	1,250	55.9%
経常利益	706	1,210	58.4%
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	375	680	55.2%

(3)売上高(連結)の推移

2019年3月期連結売上高は4期連続過去最高更新へ



1. 第2四半期 決算概要

2. 連結業績予想及びその進捗

3. 第2四半期 トピックス及び第3四半期以降
の取り組み

(1) ジュエリー事業



国内展開

統合店・新店舗の推進、積極的なマーケティング活動、ブランドイメージの強化による更なる業績拡大

海外展開

新店舗展開(デパート)の拡大により集客力・販売力の強化

<新統合店舗>

銀座ダイヤモンドシライシ町田マルイ店
エクセルコ ダイヤモンド町田マルイ店

〔オープン日〕2018年7月20日

<海外新店舗>

銀座ダイヤモンドシライシ
新光三越台北南西店

〔オープン日〕2018年9月11日



▲ 町田マルイ店
《統合店舗》



▲ 台湾・新店舗
新光三越台北南西店

エステ事業



中期的な売上拡大・利益率改善を
図るため、引き続き構造改革を推進

- 顧客層の見直し
- 商品構成の変更
- 化粧品事業への取り組み
- 赤羽店を池袋店に統合

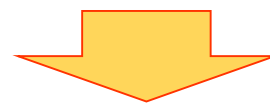


黒字化を目指す



アート事業

アート×金融
アートファンドの立ち上げ
計画



早期実現を
目指す

NEW
ART
LAB

Appendices

ブランドイメージの強化に向けた「銀座ダイヤモンドシライシ」 新CMを全国にて公開中

映画監督 **行定 勲**が描く男性視点のプロポーズ
俳優 **三浦 貴大** × 女優 **土村 芳**

この輝きと、生きていく。

行定勲監督が描く、ブランドムービー公開



▲ 新CM「彼は走っている」編

中期経営計画

(2019年3月期～2021年3月期)

(1)中期経営計画 数値目標

2021年3月期 売上高165億円、営業利益16.5億円を目指す

<連結数値目標>

[単位:百万円]

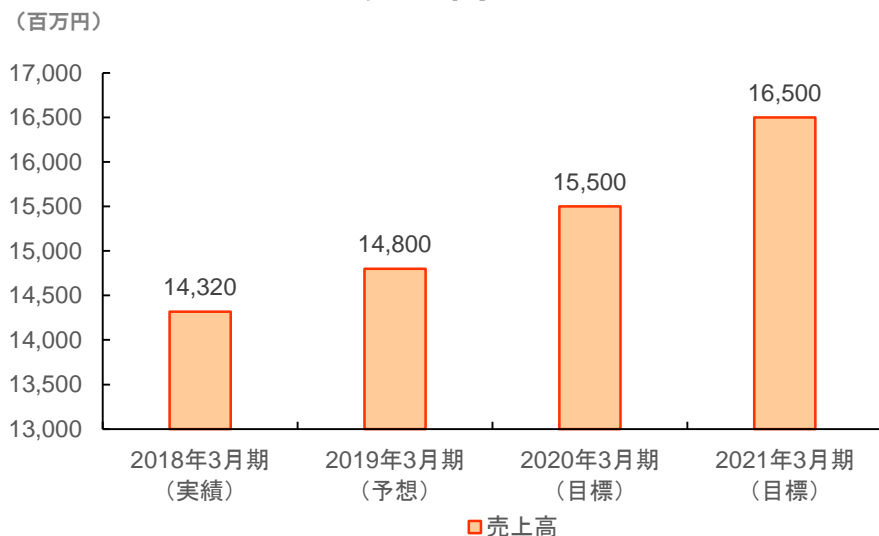
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
	(実績)	(予想)	(目標)	(目標)
売上高	14,320	14,800	15,500	16,500
営業利益	814	1,250	1,450	1,650
経常利益	725	1,210	1,400	1,600
親会社株主に帰属 する当期純利益	94	680	850	1,000

(2) 中期経営計画 概要

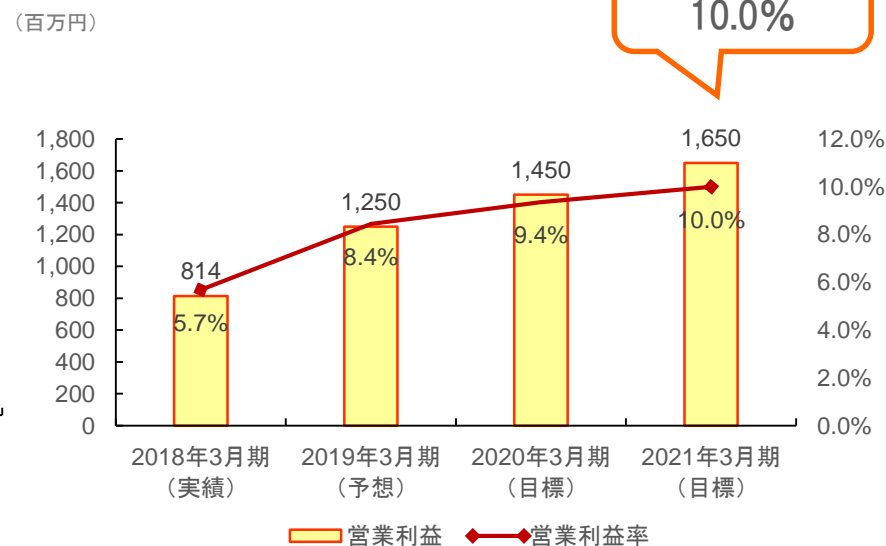
営業利益は2018年3月期をボトムにV字成長16.5億円、
営業利益率10%を目指す

- ▶ 国内既存事業の更なる拡大
- ▶ 海外展開の推進
- ▶ 新規事業の育成
- ▶ 利益を生み出す筋肉質な組織構築を図る

売上高



営業利益



株主還元

[基本方針]

- ・将来の事業規模拡大に不可欠な成長投資を優先し、株主利益及び企業価値の最大化に努める
- ・株主還元については、企業価値向上による株価上昇と剰余金の配当等によって総合的に実現し、中長期的に総還元性向30%を目指す

期末配当金

2018年3月期

30銭

2019年3月期

30銭（予想）



IR情報に関するお問い合わせ

株式会社 NEW ART HOLDINGS 経営企画部

Tel. 03-3567-8098 Fax. 03-3567-8092

(注)本資料における業績予想や将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報にもとづき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されております。したがって、実際の業績は、見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。